

東口高志（編）

《JJN スペシャル》
「治る力」を引き出す
実践！臨床栄養

平田公一

（札幌医科大学教授 外科腫瘍学・消化器外科学/
日本静脈経腸栄養学会理事長）

本書を読み終えてみると、さすが東口高志編とうなされた。同氏の高邁な精神性と教育力の高さを反映し、気遣いの余白も実に適切、各ページの文字とともに説得力のある図や表の提示が、われわれを次のページを読みたいと掻き立てるのである。知識が感性的に身につけやすい教育図書となっている。おのおののページに向ける眼力に、いっそう力が知らず知らずのうちに加わってしまうという、そのような工夫が設定されている。また、見事に多くの共著者陣として素晴らしい専門家が並んでいる。

昨今、NST 活動へ評価は高く、保険診療にも大きく反映されたことは周知のことである。その質を支えそしてチーム医療を向上させるにはもってこいの書であり、そして TPO を得た発刊ともいえる。多くの医療従事者や教育担当者は日々の勤務の中で負担を背負いつつ、努力による前進が成されている。その努力の結果として、医療の原点ともいえる「ヒポクラテス医学」の心と信念を、日常臨床の場にその理念の導入とその普及へとつなげようとする各種医療

職の考え方にさらに向上がみられる。そのような日本の努力の成されている今日、本書による具体的で良質な臨床栄養学の次世代も読んだ提案は、次への目標設定と励みを提供していると考えられる。ありがたいことである。

さて、本書を一読した後の第一印象として、編者・執筆者である東口高志先生と共著者の方々の医療への信念が、読者である医療実践者に「ヒポクラテス医学の心」をチーム医療の基本に置くべしとの理念を強く訴えようとしていることが、一貫して伝わってくる。同時に、「全く異質の新しい考え方を導入し、多くの医療者にその体得と早期実践を」との要望も直感できる。新しいチーム医療の在り方を知ってもらいたいとの思いが本書には込められている。学ぶ者に従順の姿勢の重要性を訴え、「忠実に素朴に病状を観察しようとする姿勢の重要性」を勧めている。

共著者の先生方の今日に至るまでの多年にわたる経験、特に消化器外科医や緩和医療あるいは広く臨床栄養学での実践的苦労から得た熟考性、そして生来から有する才能が、編者が求めた該博な企画

の一つひとつに答える形となっており、それぞれの項目としての『真髓』にしっかり触れた解説文と図が駆使され、NST を担当する者の胸を強く打つ内容がいずれのページでも完結している。同時に厳格な雰囲気の中で、常に努力せよとの天の声とも教示的ともいえる表現が一貫して各所に垣間見ることができ、患者を自然体でみることに、疑問に対しては学問をすること、がいかに大切かをも訴えている。未来のために想像する力、潜んでいる既存の能力を導き出すとともに、臨床栄養学とは何かの真髓を伝えようとする緊張感と熱気を込めた心意気が伝わってくる。併せて医療者としての道徳・哲学、医療者として身につけておくべきあたりまえの礼儀・規律についても指導展開をしている。まずは、臨床栄養学の知識整理、そして手工業的な技術への深い理解を核心に設定し、私心をしりぞけ配慮、慎み、威厳、平静、判断、清潔、知力、自由、忠誠などを勧めている。若い医療従事者にわかりやすく解説することに配慮し、その中で人として豊かな関与をすべきことも唱えている。このように医学教育指導者における臨床栄養学の教育法の在り方と今後の方向性を広く示唆した貴重な書と言える。われわれに何が要求されているのか、何をすべきかを教えてくれる名書である。

●AB 判/頁 312/2010 年/定価
3,780 円（本体 3,600 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-01030-6]
医学書院 刊